

礎が与えられた。

一方、球磨川開きは、幸野溝の着工に先き立つ三〇年前、寛文二年（一六六二）に、人吉の商人林正盛によって着手され、三年の歳月を費して完成した。これによって、従来の山越えによる交通に代って、球磨川の流れを利用した水運が、人吉の城下から河口の八代まで通ずるようになったのである。

次に第二の明治末期から大正にかけての時期は、日露戦争から第一次世界大戦に至る日本資本主義の発展に当たり、わが国の産業資本が、先進国水準へ向って大きく前進した時代である。

この時期に、球磨では、球磨川開き以来の水運に代って鉄道が敷設され、また近代的な道路が開設された。この新しい搬出手段によって、球磨山地の広大な森林資源が開発され、またそれにとまなつて、商工業のめざましい展開が行なわれたのである。

すなわち、当時、八代までしか開放されていなかった鹿児島本線が明治四十二年に人吉まで延長され、その年、鹿児島—吉松間も完成した。さらに二年後には、人吉—吉松間が開通し、現在の肥薩線が全通したのである。

鉄道の開通によって、球磨地方は人吉を中心に急速に発展しはじめたが、大正十年には、さらに人吉—多良木間に新しい道路が開設され、続いて大正十三年に人吉—湯前線が敷設されるにおよび、多良

木町をはじめ、免田、湯前など上球磨地方の集落が、木材の集散地として発展しはじめるのである。

球磨開発の第三期は、戦後である。わが国の経済は、昭和二十五年に戦後の混乱期を脱却し、経済自立へのあゆみを開始するが、二十九年にはほぼ戦前の生活水準を回復し、三十年から高度成長の時代にはいると言われている。その頃、球磨川の豊富な包蔵水力が、工業エネルギーとして時代の脚光を注ぎ、大規模な開発の手がさしのべられることになった。

すなわち、昭和二十七年に、県は球磨川の電源開発のために態勢を固め、まず荒瀬ダム（坂本村）の建設に乗り出したのである。このダムは、昭和二十九年末に完成し、最大出力一八、二〇〇瓩の県営藤本発電所が出きあがった。続いて三十三年には、電源開発会社の手によって瀬戸石ダム（球磨村）が完成し、最大出力二万瓩の発電能力が追加されたのである。

しかし、球磨開発にとって、もっとも重要な意義を持つ事業は、球磨川水系総合開発計画の中の中心的な事業として、昭和二十九年に着手され、三十五年度に完成した市房ダムである。

高まる地域開発への息吹き

人吉盆地の奥まった水上村に、四、〇二〇万立方尺の水を湛えるこのダムは、

農林業の近代化

球磨地区には、現在、水田七、一七四畝、樹園地八三一畝の耕地があるが、このうち球磨南部土地改良事業によって、

用水系統が改善されたのは、あわせて三、五七八畝の田畑である。

この改良工事によって、球磨農業、特にその中心地である上球磨地方の水田地帯は、経営近代化のためにも必要とな、用水施設の基礎的な整備を完了したわけであるが、これを農業経営の安定と拡大に役立てるためには、用排水系統を分離した圃場整備を行ない、水稲作の増収と省力化をはかり、安定した農業経営の基盤に立って、畜産、養蚕、果樹、そ

さいなど、成長作目の導入をはかり、経営規模の拡大につとめる必要がある。

本年度、深田村庄屋の七〇畝から開始された中球磨地区圃場整備事業は、

その意味で、今後の球磨農業の発展の鍵を握る重要な事業である。

この事業は、中球磨地区二、二〇〇畝の耕地に、約二三億円の事業費を投じて、従来の狭い圃場を用排水路の分離された三〇〇畝単位の圃場に作りかえていくというものである。原則として三〇畝ごとに用水路を分離し、二区西六畝を単位に四—六畝の農道を通し、機械を用いた生産性の高い農業をいとなめるように計画している。



★球磨開発の焦点は土地改良……活躍するブルドーザー

曲形的な多目的ダムであり、水力発電と洪水調節と農業用水の貯留を目的としている。巨大な堰堤の下に、市房第一発電所および第二発電所があり、それぞれ最大出力一五、一〇〇瓩、二、三〇〇瓩の発電能力を持つほか、計画洪水量一、三〇〇立方尺の約二分の一、六五〇立方尺の洪水調節が可能である。

また、ダムの貯水を灌漑に利用するため、三十三年に県営球磨南部土地改良事

のうち、約八〇％がこの事業の対象面積であることをみても、この事業がいかに大きなものであるかがわかる。

圃場整備と併行して、球磨ではすでに六地域、一〇市町村が農業構造改善事業の地域指定を受け、そのうち一地域は実施済、三地域は実施中であるが、これらはいずれも交換分合、区画整理などの手段によって、普通作の合理化、省力化を行ない、それによって生じた余力を、養蚕、酪農、粟など成長部門の規模拡大に振り向けることにしている。

完了した錦地域についてみると、七七畝の圃場整備によって生じた余力を、主として養蚕の規模拡大に振り向け、四四畝の集団桑園を造成し、稚蚕共同飼育所二棟、壮蚕共同飼育所三五棟を持つ、九つの養蚕協業経営体を組織している。

また構造改善事業とは別に、球磨地区では水稲の湛水直播栽培の普及に力を注いでおり、湯前、多良木、岡原、須恵など水源に近い町村によく普及している。これも、最近の労働力不足に対処して、なんとか普通作の省力化を行ない、農業経営の改善をはかろうとする動きのあらわれにほかならない。

球磨のような辺地においては、農業の経営も不安定で、農家の経営規模拡大の努力も米、藪、煙草など、比較的価格の安定した作物にむかう傾向にある。しかし、現在促進中の九州縦貫高速自動車道など、より高度な交通施設が完備し、

業が着工され、開拓地改良などを始め、総事業費八億八、九八二万円を投じてまもなく完成する。この事業は、元禄時代に築造された百太郎溝と幸野溝を近代的な用水施設に改修し、既存水田への用水補給を行なうとともに、幸野溝を延長してあらたな用水路を開き、畑地に灌漑用の水を供給するものである。

改修水路延長は百太郎溝で一六畝、幸野溝で一三畝、受益水田は合わせて二、

農業構造改善事業の実施状況

地域名	指定年度	実施期間	事業費 (千円)	事業費		基幹作目
				補助事業	融資事業	
錦地域	36	38~40	141,521	96,880	44,641	米・牛乳・養蚕
良吉	37	40~42	84,305	62,470	21,835	たばこ・養蚕・牛乳
人吉	38	40~42	128,049	99,547	28,502	養蚕・米・牛乳
山中	39	41~43	77,640	46,285	31,355	牛乳・くり・養蚕
球磨	40	42~44	297,781	229,042	68,739	米・牛乳・肉用牛
水上	41	42~44	92,160	41,320	50,840	米・くり・肉牛

注) 中球磨地域は、上村、免田町、岡原村、須恵村、深田村の5町村である

大消費地との時間、距離が短縮され、農業主産地としての在り方が変化してくると、球磨の農業も、畜産やそさいなど需要の拡大する成長部門に、一段と飛躍する必要がある。

そうした意味で、四十一年度から三年計画で着手された相良村深水の乳牛育成牧野造成事業は、注目すべき事業である。

球磨地区は、昭和三十年に集約酪農地域に指定され、現在、約三、〇〇〇頭の